

# 第5回中日大健康医療オンラインフォーラム

## 「内視鏡診断治療と胃外科治療」

### 開催概要

日時： 2022年3月10日(木) 19:00～21:30 (日本時間)

場所： 中国の Web 会議アプリ Tencent VooV Meeting(TVM)によるオンライン会議

対象： 日中の医師、看護師、医学生、医療関係者、患者など

参加： 参加費無料 3月8日(火)までに下記事務局担当宛に「参加申込」のメールをお送りください。  
参加のご案内をいたします。

国際医療健康交流機構(IMH) 岩崎 博 [h.iwasaki@imh.tokyo](mailto:h.iwasaki@imh.tokyo)

プログラム	概要	
19:00～19:10 司会・通訳紹介	司会 岩崎 博(国際医療健康交流機構 IMH) 通訳 孟 華川(国際医療福祉大学)	
19:10～19:15 趣旨説明		<b>安達 勇 先生</b> 静岡県立静岡がんセンター 参与 公益財団法人日中医学協会 副会長
19:15～19:50 基調講演1		<b>小野 裕之 先生</b> 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科部長兼任副院長 「胃癌の内視鏡診断と治療」
19:50～20:25 基調講演2		<b>寺島 雅典 先生</b> 静岡県立静岡がんセンター副院長 「胃癌に対する外科治療の現況と展望」
20:25～20:30 ビデオメッセージ	ご協賛企業ビデオメッセージ オリンパス様	
20:30～21:00 基調講演3		<b>周 平紅 先生</b> 復旦大学附属中山病院内視鏡センター主任 「内視鏡低侵襲についての新しい認識」
21:00～21:25	講演者の対話・交流	
21:25～21:30	主催者挨拶 楊 明月(北京華益日盛健康科技 総経理)	

## 第5回中日大健康医療オンラインフォーラム 基調講演概要

<p>小野 裕之 先生 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科部長兼任副院長 「胃癌の内視鏡診断と治療」</p>	<p>日本のがんの内視鏡治療は胃がんを中心に発展してきた。背景に、日本の胃がん罹患率が世界でも有数であり、今日までその診断と治療に多くの努力が払われてきたことがある。かつては根治を目的とした胃がん治療の標準は開腹外科手術だったが、近年は早期診断が進歩し、リンパ節転移のない早期の胃がん、すなわち、開腹してリンパ節郭清をする必要のない、胃の原発巣のみを切除することで治る胃がんが診断され、内視鏡的に治療されるようになってきた。</p> <p>画像強調技術が進歩し、拡大内視鏡と組み合わせることにより、診断学が大きく変わり、さらに病変を一括で正確に切除できる方法として、1990年代後半に、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が開発され、広がっている。</p>
<p>寺島 雅典 先生 静岡県立静岡がんセンター 副院長 「胃癌に対する外科治療の現況と展望」</p>	<p>胃癌の手術成績の向上を目的として、これまで様々な拡大手術に関する臨床試験が行われてきたが、拡大手術の有用性を示す事は出来なかった。むしろ、胃癌においては術後合併症が予後因子となることが明らかにされ、より合併症の少ない手術、低侵襲な手術にパラダイムがシフトすることとなった。胃癌に対する低侵襲手術としては腹腔鏡下手術が広く行われているが、近年実施された臨床試験の結果から、早期胃癌のみならず、進行胃癌に対しても腹腔鏡下手術が標準治療の一つとして推奨されるようになった。更により合併症の少ない手術としてロボット支援下手術が注目されており、現在臨床試験による検証が進められている。</p>
<p>周 平紅 先生 復旦大学附属中山病院 内視鏡センター主任 「内視鏡低侵襲についての新しい認識」</p>	<p>消化病学と消化内視鏡学の最も重要な構成部分として、内視鏡低侵襲切除はすでに表から裏、内から外、腔内から腔外、器官性疾患から機能性疾患までの進歩を遂げた。周平紅教授は20年余りの急速に発展してきた内視鏡低侵襲切除の経験を踏まえ、消化内視鏡の発展傾向を分析しながら、内視鏡低侵襲についての新しい認識—ERBECを提出した:Elements(基本要素)、Reservation-resection(保留一切除)、Bilateral-benefit(医師と患者の双方にとって有益である)、Expansion(徴候拡大)、Collaboration(医工協同)。将来、内視鏡低侵襲切除方法とはより多くの患者を助けると期待される。</p>

主催： 日本 一般社団法人国際医療健康交流機構 (IMH)

中国 北京華益日盛健康科技有限責任公司

共催： 浙江省医学科技教育発展センター、中日医学科技交流協会健康メディア分会

健康界 (予定)

協賛： オリンパス株式会社

Media Support：好医工 APP、医学論壇網、国家衛健委百姓健康テレビチャンネル

中軽海外クラウド教室、新健康時代メディア

### 【お問合せ先】

日本 一般社団法人国際医療健康交流機構 (IMH) 岩崎 博 [h.iwasaki@imh.tokyo](mailto:h.iwasaki@imh.tokyo)

中国 北京華益日盛健康科技有限責任公司

牟美璇 mxmu@huayirisheng.com 盛晏 TEL: 18610046167 (同微信)

### 【参加お申込みについて】

参加ご希望の方は一般社団法人国際医療健康交流機構 岩崎宛に「第5回中日大健康医療オンラインフォーラム参加申込」と書いたメールをお送りください。

宛先 [h.iwasaki@imh.tokyo](mailto:h.iwasaki@imh.tokyo)

岩崎より返信で参加にアクセスする URL をお送りいたします。URL をクリックしてご参加いただけます。

### 【システムについて】

VooV を使用しています。中国で広く使われているシステムです。こちらからダウンロードしてご登録ください。

<https://intl.cloud.tencent.com/jp/product/tvm>

当日は岩崎より送られた URL をクリックしていただければ自動的に参加することができます。開催時間(日本時間 19 時)の少し前にクリックして待機ください。あるいは開催途中でもクリックして参加できます。

### 【スマートフォンの利用】

パソコンのシステムで VooV がブロックされている場合は、スマートフォンでご参加ください。

